

1 単元名 ドン^{まい}米！日本の米作り

2 単元設定の理由

米は、昔から日本の主食として食卓で活躍してきた。白米としてそのまま食べるだけでなく、すしや丼物に使われたり、加工されてもちや団子にもなったりして、伝統的な料理には欠かせないものである。しかし、現代では食生活の欧米化や嗜好の変化、保存技術の進歩の影響で、パンや麺類に主食の座を奪われる場面が増えている。米の消費が減少し、厳しい状況を迎えているのが米農家の人たちである。

児童は、社会科の「米作りのさかんな庄内平野」の学習で、米農家の苦労や工夫について学習した。機械の導入によって昔に比べ、肉体労働が軽減され、労働時間も短縮化された。しかし、日々のこまめな世話は昔と変わらず必要である。天候に合わせて水を管理し、病気や害虫に常に気を配りながら毎日のように田んぼに通わなければならない。カレンダー通りの休日はなく、手間暇をかけて米を育てているという点は今も昔も同じである。新たに、高額な機械費用の負担や人手不足といった苦労も生まれていて、決して仕事が楽になったとは言えない。

そのような手間暇や苦労を重ねて作っている米であるが、児童の食生活を見てみると、米を大切に食べているとは言い難い状況である。好き嫌が多く、ご飯は特に残ることが多い。学区には農家がたくさんあり、毎朝登校時に田畑のそばを歩いて通学している児童が多いが、農家の人の苦労を思いやって感謝しながら食事をしている児童は少ないと感じられる。

本単元では第一次で、育てた米を収穫し、食べるという活動を行う。それによって、農家の人の気持ちを少しでも感じることを目的としている。日々世話をして育てる苦労、収穫した時の喜び、出来上がった米を大事に食べてもらいたいという思い、そのような農家の人の気持ちを感じることで、米を今までよりも大切に食べる気持ちをもってもらいたいと考える。

第二次では、その気持ちを実際の生活に生かす実践を行う。米を大切にするためにできることを考えさせ、課題として取り組ませる。自ずと児童は、給食の残量を減らすことを考えるであろう。日々のご飯の残量をあらためて確認させて、問題意識をもたせるようにしたい。それに加えて、高学年として全校の残量を減らすことにも意識をもって取り組んでももらいたい。どのような取組をすれば全校の残量を減らすことができるか考え、実践することで学校をリードしていく気持ちも高まり、より高い意欲をもって取り組むことができると考える。

自分たちの食生活を変えることで、作ってくれた人に対する感謝の気持ちや、応援の気持ちを表せるような単元にしたい。

3 児童の実態について（男子21名 女子11名 計32名）
略

4 単元の目標

○米作りを通して農家の人の思いや苦労を実感することによって、米を大切にすることを高め、生活の中での実践でその気持ちを表すことができる。

5 評価規準

学習活動への 関心・意欲・態度	課題設定の能力	学習活動にかかわる 技能・表現	コミュニケーション 能力
<p>○自分の食生活を進んで振り返り、改善しようとしている。</p> <p>○課題解決に向けて、情報収集や整理・分析を積極的に行い、粘り強く取り組もうとしている。</p>	<p>○自分の食生活を振り返り、米を大切にするためにできることを考えることができる。</p>	<p>○課題解決に向けて、いろいろな情報の集め方を知り、適切な方法で情報を集めることができる。</p> <p>○調べたことをまとめたり、自分の考えをわかりやすく表現したりすることができる。</p>	<p>○情報の収集や整理・分析のためにグループの友達と連携、協力して活動することができる。</p> <p>○ゲストティーチャーに適切に質問することができる。</p>

6 指導計画（35時間）

学習過程		主な学習活動	時数	学習形態	指導上の留意点
第一次 (19)	課題設定	○これまでの米作りを振り返り、実った米をどのようにして食べられるようにするか考える。 ・収穫 → 調理	2	全 体	○社会科の学習と関連させて、今後の活動の見通しをもたせる。 ○米そのもののおいしさが生かせるような調理の仕方になるように助言する。
	情報収集	○収穫から精米の仕方を調べる。 ・図書 ・インターネット ↓ ・農家の人にインタビュー	8		○図書やインターネットなどを使って情報を集め、それでも不明な点を、農家の人に質問するようにする。 ○農家の人に、収穫について助言、協力していただくが、その際、米作りをしているの苦労や思いについても話してもらう。 ○インタビューの様子は、VTRで撮影しておき、後で話の内容が確認できるようにする。
		○調理の仕方 米の炊き方 (家庭科)	課外		○収穫した米を自分たちの力で調理できるように、家庭科の学習で炊き方を学習する。
	整理・分析	○調べたことを整理して、自分たちにできる、収穫から調理までの方法を考える。	2		○方法は一つに限定せず、多くの情報を生かせるようにする。
	まとめ・表現	○収穫 ○脱穀 ○もみすり ○精米 ○保存	5		○収穫を通して、農家の人喜びや苦労を感じられるようにする。 ○脱穀やもみすりも手作業で行い、米に対して思いを深めるようにする。
○調理 おにぎり作り		2	○調理の際には、感謝の気持ちをこめて、お世話になった農家の人を招待する。 ○食べるまでの苦労を思い出させる。		

第 二 次 (16)	課題設定	○米を大切にするために、自分たちにできる実践を考える。 ・給食の残量を減らす ・農家の人の思いを伝える	3 本時 (2/3時)	全 体	○これまでの学習を思い出させ、自分たちや農家の人の苦勞、思いを振り返らせる。 ○食生活を振り返らせ、問題意識をもてるように支援する。
	情報収集	○グループごとに実践のために必要な情報を集める。 ・図書 ・インターネット ・インタビュー	5		○JAの人に米の生産と消費の状況について話をしてもらい、日本全体での課題だという認識をもつ。 ○栄養士の先生に話を聞き、残菜の状況や、米を献立で出す際の工夫、米の栄養素などについて情報を集める。
	整理・分析	○情報を整理し、実践可能かどうか、分析する。	2	グ ル ー プ	○なるべく多くの人に共感、実践してもらえる方法を考えさせる。 ○家庭や学校で実践可能なものになるように助言する。
	まとめ・表現	○実践法をまとめ、多くの人に伝わるように表現する。	6		○学習発表会の場を利用して、多くの人に実践法を紹介、推奨していく。 ○まとめ後も、残菜量調査を続けて継続的に実践させていく。

7 部会の研究課題との関わり

【視点1 人とのかかわりながら、自分を見つめ、考える学習】

○ゲストティーチャーとのかかわり

本単元では、情報収集の過程で、ゲストティーチャー（農家の人、JAの人、栄養士）を招く。その際には、集めている情報だけではなく、その人たちの思いや苦勞についても話してもらい、児童の食生活についての問題意識を高めるようにしたい。図書やインターネットでは得られないような、生きた実感の伴った話を聞くことで、児童にも実感を伴って食生活を変えようという意識が芽生えたと考える。

【視点2 子ども自身が、自分の変容に気が付く学習】

○自己評価カードによる振り返り

児童が、より自分の力の高まりを実感できるように学習の前後に自己評価カードによって振り返りをし、自分の力について評価をする。それにより、児童が学習の中で自分の苦手なことを認識し、苦手克服のために目的をもって学習を進めることができる。学習後に振り返ったときにも、自分の力の高まりを確認することができる。本単元では、第一次の後にも振り返りの機会を設けることでより自分の力を振り返ることができるようにしたいと考える。

○ご飯残量の削減

第二次の実践で、給食の残量を減らす取組を行う。それによって、実践前の残量と実践後の残量を比較して、どのくらい成果があったか確認することができる。クラスの残量を調べて、減っていくことが確認できれば自分たちの取組の成果を実感し、お米を大切にすることの大切さを感じるができるようになる。

8 本時の展開

(1) 本時の目標

- 自分の食生活を振り返り、改善しようとする事ができる。
- 米をみんなが大切にするために、実践することを考えることができる。

(2) 展開 (21 / 35)

学 習 活 動	○指導上の留意点 ◇評価
<p>○これまでの学習を思い出し、米を食べるまでの苦労を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育てるのに世話が大変だった。 ・脱穀、もみすりに苦労した。 ・農家の人はもっとたくさんの米を作っていて大変そうだ。 <p>○自分たちの普段のご飯の食べ方について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんなにご飯をたくさん残しているのか。 ・いつもこんなに残しているのに気づけなかった。 ・米を大切にしていないなあ。 <p>○本時の学習のめあてをもつ。</p>	<p>○思いつかない子には、これまでの学習プリントで振り返らせる。</p> <p>○普段のご飯の残量を写真と資料で見せて、課題意識をもてるように支援する。</p> <p>○ほかのクラスへの取組の必要性を感じさせるために、全校のご飯の残量がわかる資料を見せる。</p> <p>◇進んで自分の食生活を改善しようとしているか。</p>
<p>お米を大事にするために、みんなができることは何だろう。</p>	

- 考えたことをワークシートに書く。
 - ・ご飯を一粒も残さないで食べる
 - ・ご飯をたくさん食べる
 - ・ほかのクラスにもご飯を残さないよう呼びかける
 - ・農家の人がどんな苦勞をしているか伝える
 - ・作った人の思いを伝える
 - ・米の栄養素を紹介する

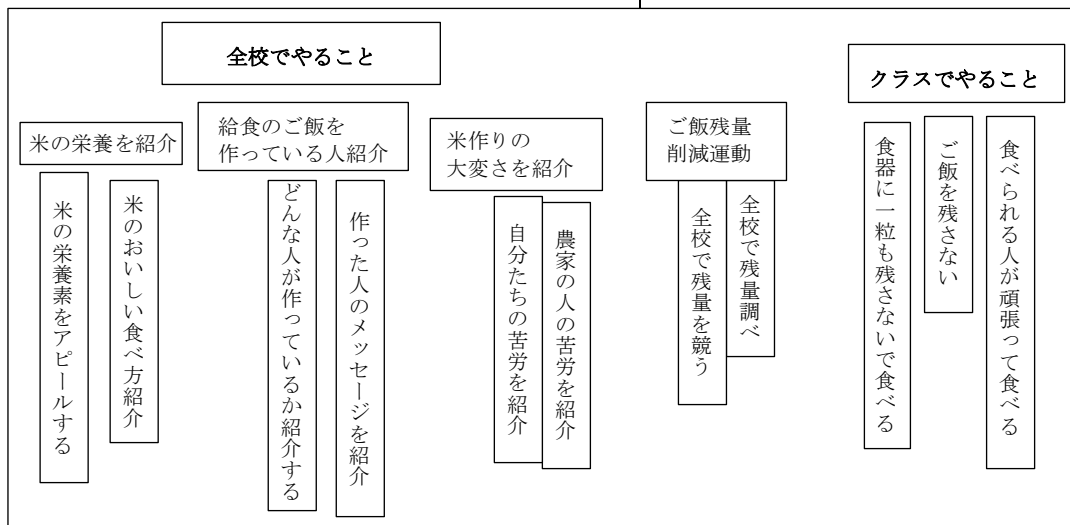
○班で考えを出し合い、カードに書く。

○考えを発表し、内容ごとに分類する。

- 考えが思い浮かばない児童には、掲示物や学習プリントを見させて、考えがもてるように支援する。
- ほかのクラスへ強制するような取組にならないように助言する。

- 一枚のカードに一つの考えを記入させる。
- 似たような考えはまとめさせ、班で何枚書いてもよいことを伝える。

- 考えの似ているものから順に発表させていく。
- 分類が難しいものは、どこに似ているか全体で考えさせる。
- 全ての考えが出たら、内容ごとにタイトルをつけ、把握しやすいようにする。



○自分の取り組みたい実践を考え、本時の感想を書く。

○次時の予告を聞く。

○希望を集約して、次時にそれぞれの取組を決めることを伝える。